

保育者になってみませんか ～ 社会人・現役高校生の方々へ

近頃、社会人の方でお問い合わせが多くなってきました。確実に就職につながる資格、免許の取得を真剣に考えておられることが、ひしひしと伝わってまいります。

昨今の 100 年に一度と言われる世界的経済不況の影響が、日本の職場にもじわりと影響が及んだせいでしょうか。

社会人、現役の高校生の方々、ぜひ、ご覧ください。

【子育て、なぜ大事か】

日本は昔から、子どもを大事にしてきた国です。

12 世紀の梁塵秘抄には、「遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけむ 遊ぶ子どもの声聞けば わが身さへこそゆるがるる」が今様に収められ、江戸時代には寺小屋が全国で自然発生し 1 万 5 千以上あったといわれます。そこでは一人一人にあったカリキュラムで、読み、書き、そろばん、躰けなどを教えてきました。

江戸時代末、日本を訪れた外国人は、日本人の識字率の高さに驚きました。江戸時代の、子育ての格言は「三つ心、六つ躰け、九つ言葉、十二文(ふみ)、十五理(ことわり)で、未決まる」と言われ、教える内容は、単に「知識」ではなく、「知恵」であったようです。

日本の社会をめぐる環境は変化しつつあり、人口構造の変化(少子高齢化、人口減社会、労働力人口の減少)、労働環境の変化(低賃金、不安定な就労形態、長時間労働)があると いわれます。

人口は国の一つの力であり、赤ちゃんの出産を促す、子育て期の母親が安心して子どもを預けて働ける就労環境を整え、労働力人口の維持を図ることはきわめて大事な方向です。

幼稚園教諭や保育士は、地域、家庭と連携して、国民が望む子育ての支援に当たる、大変、大事な仕事です。

その使命は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にあたることです。あなたも、次世代の健やかな子どもを育てるため、子どもたちの輪に入ってみませんか。先生に対する子どもたちの信頼の眼と笑顔はあなたの生きがいになるはずです。

次の懸念にお答えします。

懸念 1： 小子化の傾向で、幼稚園・保育園での職場が減るのでは？

答： 確かに日本は少子化で、出産人口は 2005 年で 109 万人、2030 年で推計 69.5 万人であり、2030 年推計の 15 歳以下人口 1115 万人のうち、6 歳以下は 446 万人と推定され、幼児人口が減っているというのは事実です。

しかし、他方で世帯の働き方が変わってきています。1997 年に共働き世帯（977 万世帯）が専業主婦世帯（854 万世帯）より多くなりました。共働き世帯は幼児が必ずいるわけではありませんが、幼児がいる場合、幼稚園、保育所に安心して預けたいとのニーズは高く、出産のためにやむを得ず退職した母親がかなり多いのではないかと思われ、少子化に歯止めがかかるよう国も動いているようです。

現在、保育所定員 212.1 万人（2008 年 4 月）、幼稚園定員 171 万人（2007 年 5 月）で合計 383 万人の定員の受け皿がありますが、2008 年 4 月で保育所待機児童は、全国で 1 万 9550 人、比較的ゆとりがある群馬県でも 77 人であり、預けたいニーズは満たされていないのです。

今後、100 年に一度といわれる経済不況の影響が実体経済に及んでくるにつれ、共働きニーズがさらに高まることも予想され、国の子育て支援政策とあいまって、少子化傾向でも子どもを預けたいニーズはより高まると予想されます。

その結果、保育園、幼稚園の職場が減ることはありません。

懸念 2： 仕事の時間が長く、責任が重い割には、処遇が低い？

答： 公立保育園の場合、公務員に準じます。昇給、昇格は各自治体の規定によります。初任給で、20 万円弱といわれています。私立保育園は、地域差があり、おおむね 15 万円から 20 万円ぐらいが多いとされています。年収は、新人からベテランまでの平均で 400 万円から 500 万円とされています。幼稚園教諭も同様の傾向です。

収入額は非常に高いというわけではありませんが、**不況でも安定した募集があり、求人ニーズは増えています。**

長い勤務時間や保護者への対応の難しさなどで、仕事がきつく責任が重いという見方をされる方もいらっしゃいますが、仕事に対する考え方は、価値観次第であると思います。

子どもを知ることは、自分を知ることにもつながります。未来を担う子どもの笑顔こそ、最大の報酬とお考えになる方は、是非、検討して見ませんか。